

日商簿記 2級 工業簿記



合格 これ1冊



寺尾芳樹 企画・執筆
佐伯マスオ イラスト



© ネットスクール出版



実戦編

答案用紙

材		料	
6/1 月初有高	3,000,000	6/30 消費高	()
6/30 仕入高	()	ゝ 原価差異	()
		ゝ 月末有高	3,400,000
	<u>()</u>		<u>()</u>

製造間接費			
6/30 間接材料費	()	6/30 予定配賦額	()
ゝ 間接労務費	1,150,000	ゝ 原価差異	125,000
ゝ 間接経費	2,810,000		
	<u>()</u>		<u>()</u>

仕掛品			
6/1 月初有高	()	6/30 完成高	13,416,000
6/30 直接材料費	()	ゝ 月末有高	2,275,000
ゝ 直接労務費	3,500,000		
ゝ 製造間接費	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>

買掛金			
6/30 現金支払い	()	6/1 月初残高	1,820,000
ゝ 月末残高	1,320,000	6/30 材料仕入高	()
	<u>()</u>		<u>()</u>



答案用紙

賃金・給料

支 払 額 ()	前 月 繰 越 ()
次 月 繰 越 ()	消 費 額 ()
	原 価 差 異 ()
<u>()</u>	<u>()</u>

製造間接費

間 接 材 料 費 500,000	予 定 配 賦 額 ()
間 接 労 務 費	
賃 金・給 料 ()	
賞 与 引 当 金 ()	
間 接 経 費 2,810,000	
原 価 差 異 40,000	
<u>()</u>	<u>()</u>

仕 掛 品

月 初 有 高 ()	完 成 高 13,416,000
直 接 材 料 費 6,000,000	月 末 有 高 3,400,000
直 接 労 務 費 ()	
製 造 間 接 費 ()	
<u>()</u>	<u>()</u>



答案用紙

製造間接費

間接材料費	540,000	予定配賦額 ()	
間接労務費	1,150,000	原価差異	50,000
間接経費			
減価償却累計額	()		
前払保険料	()		
修繕引当金	()		
材 料	()		
現金預金	()		
未払水道光熱費	()		
	()		()

仕掛品

月初有高	816,000	完成高 ()	
直接材料費	6,000,000	月末有高 ()	
直接労務費	3,500,000		
直接経費	()		
製造間接費	()		
	()		()

製品

月初有高	4,584,000	売上原価 ()	
完成品原価	()	月末有高	3,000,000
	()		()

売上原価

製品	()	月次損益	15,000,000
----	-----	------	------------



30
コマ

製造間接費の計算

●第4問対策 製造間接費計算●

製造間接費は、直接材料費、直接労務費、直接経費以外の原価の集まりです。

30コマでは、実際配賦から予定配賦の順でみていき、差異分析の問題まで解きましょう。

30コマの問題構成

- 問題1 製造間接費の実際配賦
- 問題2 製造間接費の予定配賦…差異分析

問題1 製造間接費の実際配賦

NZM 製作所における、次の [資料] にもとづき、答案用紙にある勘定連絡図の () 内に適切な金額を記入しなさい。なお、製造間接費は実際配賦する。

[資料]

- | | | | |
|--------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 間接材料費 | 540,000 円 | 4. 保険料(月割額) | 450,000 円 |
| 2. 間接労務費 | 1,150,000 円 | 5. 減価償却費(月割額) | 2,000,000 円 |
| 3. 電力料金(測定額) | 210,000 円 | 6. 水道料金(測定額) | 150,000 円 |

答案用紙

製造間接費		仕掛品	
間接材料費	実際配賦	月初有高	完成品
()	()	1,816,000	()
間接労務費		直接材料費	
()		6,000,000	
間接経費		直接労務費	
電力料金 ()		3,500,000	
保険料 ()		直接経費	
減価償却費 ()		0	
水道料金 ()		製造間接費	月末有高
		()	2,400,000

問題2 製造間接費の予定配賦

NZM 製作所における、次の資料にもとづき、各問に答えなさい。

[資料]

製造間接費は、直接作業時間を配賦基準として、予定配賦率を用いて各製造指図書に配賦する。当月の直接作業時間は 3,500 時間であった。

年間の製造間接費予算 54,000,000 円

年間の予定総直接作業時間 43,200 時間

問 1

答案用紙にある勘定連絡図の()内に適切な金額を記入しなさい。

問 2

問 1 の配賦差異について、変動予算を用いて予算差異と操業度差異に分析しなさい。ただし、年間の製造間接費予算の内訳を変動費 21,600,000 円、固定費 32,400,000 円とする。

なお、答案用紙の(借方・貸方)の欄は、借方、貸方のいずれかを○で囲みなさい。

答案用紙

問 1

製造間接費			仕掛品	
間接材料費	540,000	予定配賦	月初有高	完成品
		()	1,816,000	()
間接労務費	1,250,000		直接材料費	
			6,000,000	
間接経費			直接労務費	
電力料金	210,000		3,500,000	
保険料	450,000		直接経費	
減価償却費	2,000,000	配賦差異	0	
水道料金	150,000	()	製造間接費	月末有高
			()	2,400,000

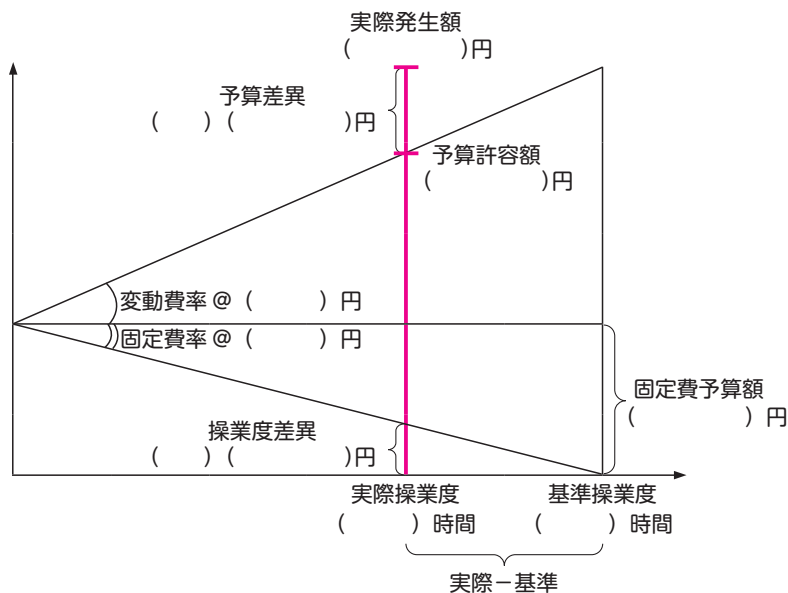
コスト ⊕ 不利 配賦差異 有利 ⊖

製造間接費	
()	

問2

予算差異	操業度差異
円（借方・貸方）	円（借方・貸方）

(ヒント：シュラッター図)



問3.

問1を前提とした部門別計算をせず、NZM製作所全体でみた総括配賦率を用いて実際配賦をした場合、製造指図書 No.101 に配賦される製造間接費を計算しなさい。

答案用紙

問1

製造間接費部門別配賦表

(単位：円)

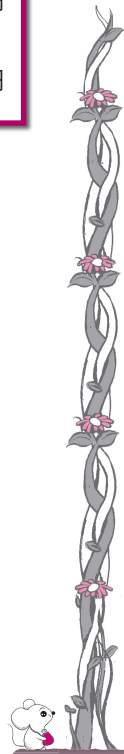
摘 要	合 計	製 造 部 門		補 助 部 門		
		加工部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費合計	16,000,000	6,350,000	5,250,000	1,700,000	1,500,000	1,200,000
工場事務部門						
修繕部門						
動力部門						
製造部門費						

問2

部門別配賦率による製造指図書 No.101 の製造間接費 円

問3

総括配賦率による製造指図書 No.101 の製造間接費 円



答案用紙

問1

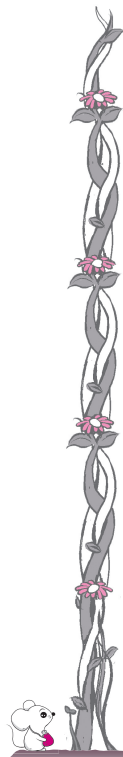
實際補助部門費配賦表

(単位：円)

摘要	合計	製造部門		補助部門		
		加工部門	組立部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費合計	14,150,000	6,350,000	4,800,000	1,200,000	1,000,000	800,000
工場事務部門						
修繕部門						
動力部門						
製造部門費						

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	()	製造間接費	14,150,000
予算差異	()	操業度差異	()



問題1 個別原価計算

NZM 製作所では、実際個別原価計算を採用している。次の [資料] にもとづき、答案用紙にある仕掛品勘定および製品勘定を完成させなさい。

[資料]

		指図書別原価計算表					(単位:円)
摘要	No.101	No.102	No.102-2	No.103	No.104	合計	
月初仕掛品原価	56,000	—	—	—	—	()	
直接材料費	40,000	75,000	22,500	35,000	29,000	()	
直接労務費	75,000	105,000	31,500	90,000	45,000	()	
製造間接費	100,000	140,000	42,000	120,000	60,000	()	
小計	()	()	()	()	()	()	
仕損費	—	()	(△)	—	—	—	
合計	()	()	()	()	()	()	
備考	完成・引渡済	完成・引渡済	No.102へ振替	完成・未引渡	仕掛中	—	

※1 No.102の一部が仕損となったので、補修指図書 No.102-2 を発行している。仕損は正常なものであったので、No.102 に賦課する。

※2 No.102-2 に関する仕訳(仕損費勘定を使用)

(借) 仕 損 費 () (貸) 仕 掛 品 ()
 (借) 仕 掛 品 () (貸) 仕 損 費 ()

答案用紙

仕 掛 品		(単位:円)
月初有高 ()	完 成 高 ()	
直接材料費 ()	仕 損 費 ()	
直接労務費 ()	月 末 有 高 ()	
製造間接費 ()		
仕 損 費 ()		
()	()	

製 品		(単位:円)
月初有高 0	売 上 原 価 ()	
仕 掛 品 ()	月 末 有 高 ()	
()	()	

答案用紙

仕 掛 品		(単位：円)
月初有高	()	完成高 ()
直接材料費	()	月末有高 ()
直接労務費	()	
製造間接費	()	
	()	()

月次損益計算書		(単位：円)
売上高		10,000,000
売上原価		
月初製品有高	()	
当月製品製造原価	()	
合計	()	
月末製品有高	()	
差引	()	
原価差異	()	()
売上総利益		()
販売費及び一般管理費		2,350,000
営業利益		()



1. 材料 7,000,000 円を掛けて購入し、工場の材料保管庫に納品された。
2. 工場従業員に対する給与 4,560,000 円を現金で支給した。
3. 製品製造に関わる当月分の特許権使用料は 490,000 円であり、小切手を振り出して支払った。
4. 当月の機械設備の減価償却を行った。機械設備の減価償却費の年間見積額は 24,000,000 円である。
5. 製品 13,416,000 円が完成し、本社の製品保管庫に搬入された。

答案用紙

	工 場 の 仕 訳			
	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

	本 社 の 仕 訳			
	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				



問2 答案用紙にある総合原価計算表を完成させなさい。ただし、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法として、平均法を用いること。

答案用紙

問1

総合原価計算表 (単位:円)

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品	1,162,500	()	1,816,000
当月投入	()	8,000,000	14,000,000
合計	()	()	()
月末仕掛品	()	()	()
完成品	()	()	()

問2

総合原価計算表 (単位:円)

	材料費	加工費	合計
月初仕掛品	1,162,500	()	1,816,000
当月投入	()	8,000,000	14,000,000
合計	()	()	()
月末仕掛品	()	()	()
完成品	()	()	()



問題2 総合原価計算表の作成(平均的投入)

NZM 製作所では、単純総合原価計算を採用している。次の [資料] にもとづき、答案用紙にある総合原価計算表を完成させなさい。ただし、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法として、先入先出法を用いること。

[資料]

1. 当月の生産データ

月初仕掛品	250 kg (40%)
当月完成品	1,200 kg
月末仕掛品	300 kg (50%)

2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価	1,751,500 円
当月製造費用	14,000,000 円

※ 原価データは答案用紙にも示してある。

- ※1 原料Nは工程の始点で投入している。
 ※2 原料Zは工程を通じて平均的に投入している。
 ※3 () 内は加工進捗度を示している。

答案用紙

総合原価計算表

(単位:円)

	原料 N	原料 Z	加工費	合計
月初仕掛品	1,125,000	()	()	1,751,500
当月投入	6,000,000	()	4,500,000	14,000,000
合計	7,125,000	3,793,500	()	()
月末仕掛品	()	()	()	()
完成品	()	()	()	()

問題3 総合原価計算表の作成(完成品のみ負担)

NZM 製作所では、単純総合原価計算を採用している。次の〔資料〕にもとづき、答案用紙にある総合原価計算表を完成させなさい。ただし、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法として、平均法を用いること。

〔資料〕

1. 当月の生産データ

月初仕掛品	250 kg (0.4)
当月投入	1,250
合計	<u>1,500 kg</u>
完成品	1,100 kg
正常仕損	100 (1.0)
月末仕掛品	300 (0.5)
合計	<u>1,500 kg</u>

2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価	1,816,000 円
当月製造費用	14,000,000 円

※ 原価データは答案用紙にも示してある。

※1 直接材料は工程の始点で投入している。

※2 ()内は加工費の進捗度を示している。

3. 正常仕損は工程の終点で発生しており、正常仕損費はすべて完成品に負担させる。なお、仕損品の処分価額は0(ゼロ)である。

答案用紙

総合原価計算表 (単位:円)

	材 料 費	加 工 費	合 計
月初仕掛品	()	653,500	1,816,000
当月投入	6,000,000	()	14,000,000
合計	()	()	()
月末仕掛品	()	()	()
完成品	()	()	()



問題4 総合原価計算表の作成(両者負担)

NZM 製作所では、単純総合原価計算を採用している。次の [資料] にもとづき、答案用紙にある総合原価計算表を完成させなさい。ただし、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法として、先入先出法を用いること。また、正常減損は、当月投入分より発生しているものとする。

[資料]

1. 当月の生産データ

月初仕掛品	250 kg (2/5)
当月投入	1,250
合計	1,500 kg
完成品	1,100 kg
正常減損	100 (?)
月末仕掛品	300 (1/2)
合計	1,500 kg

2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価	1,862,500 円
当月製造費用	14,570,500 円

※ 原価データは答案用紙にも示してある。

- ※1 直接材料は工程の始点で投入している。
- ※2 ()内は加工費の進捗度を示している。

3. 正常減損は工程の途中で発生している。

答案用紙

総合原価計算表 (単位:円)

	原料費	加工費	合計
月初仕掛品	1,162,500	()	1,862,500
当月投入	()	8,820,500	14,570,500
合計	()	()	()
月末仕掛品	()	()	()
完成品	()	()	()

問題5 総合原価計算表の作成(本試験レベル)

目標時間 20 分、目標点 16 点

NZM 製作所では、単純総合原価計算を採用している。次の [資料] にもとづき、各問に答えなさい。

(材料の投入に関する注意点)

原料Mを工程の始点で投入している。

工程の終点で検査を行い、合格品に対してのみ包装材Kを用いて、10 個単位で箱詰め梱包している。

[資料]

1. 当月の生産データ

月初仕掛品 250 個(40%)

当月投入 1,250

合計 1,500 個

完成品 1,000 個

正常仕損 200

月末仕掛品 300 (50%)

合計 1,500 個

※ ()内は加工費の進捗度を示している。

2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価	1,816,000 円
当月製造費用	14,078,000 円

※ 原価データは答案用紙にも示してある。

3. 正常仕損は工程の終点で発生したものととして、正常仕損費はすべて完成品に負担させる。なお、仕損品の処分価額は0(ゼロ)である。

問1 答案用紙にある総合原価計算表を完成させなさい。ただし、原価投入額合計を完成品総合原価と月末仕掛品原価に按分する方法として、平均法を用いること。

問2 1箱あたりの単位原価を計算しなさい。

答案用紙

問1

総合原価計算表

(単位:円)

	原料 M	包装材 K	加工費	合計
月初仕掛品	()	—	653,500	1,816,000
当月投入	6,000,000	()	8,000,000	14,078,000
合計	()	()	8,653,500	()
月末仕掛品	()	—	()	()
完成品	()	()	()	()

問2

1箱あたりの単位原価 = 円/箱

答案用紙

工程別総合原価計算表

	第 1 工 程			第 2 工 程		
	数 量	原 料 費	加 工 費	数 量	前 工 程 費	加 工 費
月初仕掛品	250 kg	1,162,500 円	653,500 円	200 kg	2,240,000 円	454,200 円
当月投入	1,250	6,000,000	8,000,000	1,000	()	3,570,000
合 計	1,500 kg	7,162,500 円	8,653,500 円	1,200 kg	()円	4,024,200 円
差引：月末仕掛品	300	()	()	100	()	()
完 成 品	1,200 kg	()円	()円	1,100 kg	()円	()円

仕 掛 品 (単位：円)

月 初 有 高	4,510,200	製 品 M	()
原 料 費	()	製 品 K	2,237,000
加 工 費	11,570,000	月 末 有 高	()
	()		()



2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価 (単位：円)

	合計	P製品	B製品
原料費	3,402,500	1,162,500	2,240,000
加工費	1,107,700	653,500	454,200

当月製造費用 (単位：円)

	合計	P製品	B製品
原料費	17,185,000	6,000,000	11,185,000
加工費	11,570,000	?	?

3. 直接作業時間データ

当月実際直接作業時間

	合計	P製品	B製品
	5,785 時間	4,000 時間	1,785 時間

答案用紙

組別総合原価計算表 (単位：円)

	P 製品		B 製品	
	原料費	加工費	原料費	加工費
月初仕掛品原価	1,162,500	653,500	2,240,000	454,200
当月製造費用	6,000,000	()	11,185,000	()
合計	7,162,500	()	13,425,000	()
月末仕掛品原価	()	()	()	()
完成品総合原価	()	()	()	()
完成品単位原価	()	()	()	()



2. 当月の原価データ

月初仕掛品原価

原料費	1,162,500 円
加工費	653,500 円

当月製造費用

原料費	6,000,000 円
加工費	8,000,000 円

3. 製品1個あたりの重量(単位:g)

R製品	A製品	T製品
1,000	750	500

答案用紙

月 末 仕 掛 品 原 価 = 円完 成 品 総 合 原 価 = 円等級製品Rの完成品単位原価 = 円/個等級製品Aの完成品単位原価 = 円/個等級製品Tの完成品単位原価 = 円/個

2. 生産実績データ

月初仕掛品	250 個 (40%)
当月投入	1,250
合計	1,500 個
完成品	1,200 個
月末仕掛品	300 (50%)
合計	1,500 個

- ※1 材料は工程の始点で投入している。
 ※2 () 内は加工費の進捗度を示している。

3. 当月の実際原価データ

直接材料費	
実際発生額	6,200,000 円
実際消費量	6,200 kg
直接労務費	
実際発生額	3,510,000 円
実際直接作業時間	2,600 時間
製造間接費	
実際発生額	5,000,000 円

答案用紙

標準製造原価差異分析表

(単位：円)

直接材料費総差異	()	()
材料価格差異	()	
材料数量差異	()	
直接労務費総差異	()	()
労働賃率差異	()	
労働時間差異	()	
製造間接費総差異	()	()
予算差異	()	
能率差異	()	
操業度差異	()	
標準製造原価差異		()

※不利な差異には、△をつけること。



答案用紙

仕 掛 品		(単位：円)
月初有高 ()	完 成 高 ()	
直接材料費 ()	月 末 有 高 ()	
直接労務費 ()	標準原価差異 ()	
製造間接費 ()		
()		()

月次損益計算書		(単位：円)
I 売 上 高		19,800,000
II 売 上 原 価		
月初製品有高 ()		
当月製品製造原価 ()		
合 計 ()		
月末製品有高 ()		
標準原価差異 ()	()	()
売 上 総 利 益		()
(以下略)		



- 問2 当月の損益分岐点売上高を計算しなさい。
 問3 当月の営業利益は4,000,000円であったが、目標とする営業利益はその1.5倍であった。目標営業利益を達成するために必要であった売上高を計算しなさい。

答案用紙

問1 直接原価計算による月次損益計算書

	(単位：円)
売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
固定費	
固定製造原価	()
固定販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

問2 当月の損益分岐点売上高 = 円

問3 目標営業利益を達成するための売上高 = 円



答案用紙

問1

直接原価計算による損益計算書

		(単位：円)
売上高	()	
変動売上原価	()	
変動製造マージン	()	
変動販売費	()	
貢献利益	()	
固定費		
固定製造原価	()	
固定販売費及び一般管理費	()	()
営業利益	()	()

問2

		(単位：円)
直接原価計算の営業利益	()	
固定費調整		
期末仕掛品・製品の固定製造原価	()	
期首仕掛品・製品の固定製造原価	()	
全部原価計算の営業利益	()	()

※ 数値が0(ゼロ)の場合は、「0」と記入すること